

きらり

酒田市農業委員会報 No.25



「お正月は手作り門松で」ミニ門松作り体験（酒田市グリーン・ツーリズム推進協議会）

特集

農業委員会が新体制でスタート（2、3、4面）

～新しい農業委員を紹介します～

酒田の米が海を渡りました（5面）

～輸出の可能性を求めて 香港視察研修～

農業青年出合い・交流事業（6面）

若手農業者リレーエッセー かぜ

麦わら通信 短信（7面）

24年新春号

農業委員会が新体制でスタート!!

地域に根差した活動で 農家を結ぶ

新しい農業委員を紹介します

農業委員の改選が行われ、一二月から新たな顔ぶれとなりました。委員定数は、改選前の三八名から二九名となり、任期は三年間です。新しい農業委員による総会が一二月一日に開催され、新たなスタートを切りました。

就任のご挨拶



会長 五十嵐 直太郎
広野 (公選)

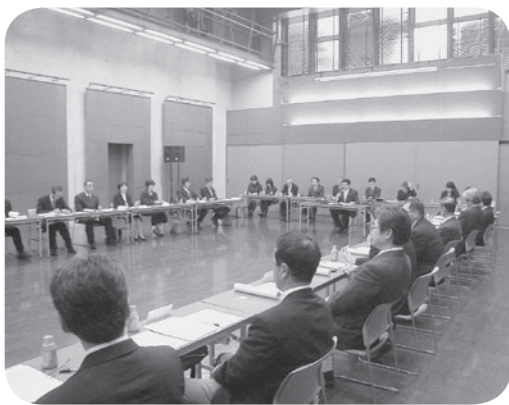
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、東日本大震災・原発事故・豪雨による洪水等の大きな被害が多発しました。さらに国民への十分な情報提供や幅広い国民的な議論が行われていない中で、政府のTPP交渉への参加表明により、農業を取り巻く環境や情勢は、大きな困難と不安を抱えることになりました。農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加など、難しい課題も抱えています。本市は他地域に比べ、経営の合理化を目指し、集落営農が数多く組織されてお

ります。これからは、本市農業の中核をなす認定農業者を含めた多様な担い手の育成が、強く求められます。また、現在取り組んでいるグリーン・ツーリズムや異業種との交流、流通・加工・販売の分野において、新しく出つつある芽を、大きくしっかりと育てていく努力が必要だと思えます。

農村地域は、生態系に恵まれた緑濃い山河と豊かな水を有し、日本人の魂の源泉とも言える、黄金色に変化する多様な田園風景があります。

この素晴らしい環境を守り、後世に残すためにも、国内法も及ばない片寄った経済ルールで裁かれる農業政策ではなく、WIN・WIN（共に益を得る）の精神に裏打ちされた、持続発展可能な施策を切望するもので



農業委員会の体制は、昨年の一二月より農業委員の定数も三八名から二九名となり、部会制に替わり総会制で運営することになりました。委員一人一人の責務も大きくなりますが、これまで以上に農業委員会が、農家にとって身近な存在となるよう、地域に根差したさらなる活動に取り組みでまいりたいと思います。

農業を取り巻く根深い問題や課題が山積していますが、関係機関や組織と連携・協力しながら、本市農業の発展のために邁進していききたいと思えます。今後ともご支援、ご鞭撻を願います。



佐藤 好博
会長職務代理人
中野曾根 (公選)

TPP等先の見えない日本農業の中、酒田農業振興向上にむけ微力ながら提言していきたい。新たな気持ちで頑張ります。



富樫 一彦
農地調査委員長
山寺 (公選)

集落営農、TPPという農業の変革期。日本の農業は何処へ向かうのか。チャンスなのかピンチなのか。新たな視野を持ち職務に当たりたいと思えます。



千葉 明
農地調査副委員長
茨野新田 (公選)

集落営農から法人化、TPPと日本の農業は変わろうとしています。地域農業を守り、元気がでる農業を築いていきたい。



柿崎 一美
農業振興委員長
木川 (公選)

農業を語り議論されることはあっても、農家を考えることは少ない。鶏が先か？卵が先か？の発想をもって議論されないとTPPに飲み込まれてしまう！



後藤 保喜
農業振興副委員長
北俣 (公選)

世界人口は七〇億人に達し、今世紀半ばには九〇億人の予想とか。加えて、あちらこちらで大旱魃や大洪水。「いつまでもあると思うな安い農産物」



佐藤 六雄
会報委員長
塚瀨 (公選)

日本農業の根幹を揺るがすような政策が打ち出される農政に戸惑う農業者も少なくない。初心に戻って、地域の農業者との対話を大切に、地域農業の課題を少しでも解消していきたい。



川村 洋
浜中 (公選)

今回で三期目となります。委員定数も減となり、一人一人の責任の大きさを感ぜさせられる日々ですが、基本を忘れずに頑張ります。



五十嵐 亨
坂野辺新田 (公選)

農業に押し寄せてくる自然の猛威や貿易問題に屈することなく、皆さんと共に頑張ります。



庄司 隆
滝野沢 (公選)

委員定数の削減により地域から一人になったことで、今までより責務を感じます。市場原理優先の社会構造で多くの人は幸せに感じない。農政活動も皆で全力投球。



池田 良之
北平沢 (公選)

地域の先輩方から「農地の番人として頑張れ」と激励を受けました。農家のため、農業のため委員として学びながら取り組みたい。



荘司 研治
堀野内 (公選)

農業従事者の実態に対応した幅広い意見集約を図り、行動していきたい。また、元気のある若者の農業者育成に関わりながら、共に自分も頑張ります。



齋藤 均
手蔵田 (公選)

昨年お米も牛も無事でした。「空からは降り注ぐ希望稲実る」「満腹の牛の耳にも春の海」蛇、蛙は偉い、経済成長なんてクソくらえ！「一つ身でつなぐ命や土中」



大場 重樹
千代田 (公選)

厳しい農業情勢下にあります。地域農業振興のため、委員としての使命と役割を認識し、職務に努めてまいります。



佐藤 康晴
大島田 (JA庄内みどり推薦)

農業情勢が著しく変化し、農業従事者の高齢化や担い手不足へと進む中、農地の健全な維持、酒田市農業の振興発展に努力します。



阿部 裕子
亀ヶ崎 (議会推薦)

生き生き活躍する若い女性のネットワークづくりに取り組み応援したい。また、TPP問題で激動する農業の新時代を迎え、農業委員として自覚を持って行動したい。



五十嵐 弘樹
黒森 (公選)

活気ある地域、元気でやりがいの持てる酒田農業を目指し、地域と農業行政機関とのパイプ役として頑張ります。



土田 治夫
飛鳥 (公選)

五年先、一〇年先を見据えた地域農業のあり方。担い手が生業として成り立つ農業。共に考え行動する農業委員でありたい。



横山 主税
亀ヶ崎 (公選)

選挙区の皆様には、定数削減によりご不便をお掛けしますが、地元農業者の代表として精一杯頑張りに行動してまいります。



伊藤 正明
上野曾根 (公選)


地域農業のあるべき姿を農業者と共に考えていきたい。



阿部 重彰
城輪 (公選)


農産物・地域・文化・人材の発信が、酒田農業の究極の振興。その過渡期、草創期に当たるこの三年間です。よろしくお願います。

農業委員は地域農業者の代表で、農地等に関する問題の相談相手です。お気軽にご相談ください。




富樫 善弘
(漆曾根 土地改良区推薦)

土地改良区の推薦委員として、農地法を遵守して、元気のである農業に微力ながら応援したい。どうぞよろしくお願います。



矢口 信也
(中野侯 農業共済推薦)

地域農業での担い手不足、集落営農組織の弱体化が農地有効利用を図る上で課題となっている。農業関係機関と連携し、活動してまいります。




荘司 太一郎
(竹田 公選)

TPP、原発など課題のある中で、優良農地の確保など担い手が安全・安心な環境のために。




佐藤 喜紀
(下市神 議会推薦)

農業委員を務めることになりましたが、新人ですのでよろしくお願います。酒田市における農業生産力の発展、農家の地位、生活の向上を目標に頑張ります。



遠田 君雄
(下青沢 公選)

毎年のように起こる大雨被害や中山間地域の作業条件を考慮していない集落営農の進め方等の課題解決に、農家・地域の皆様の意見を頂きながら頑張ります。




村上 淳子
(本楯 議会推薦)

環境・人・動物・景観に優しい多面的機能を持つ農用地の保全を未来に繋げるため行動したい。酒田産農産物の推進をしながら、消費者と生産者の相互理解に努めたい。



関口 友子
(藤塚 公選)

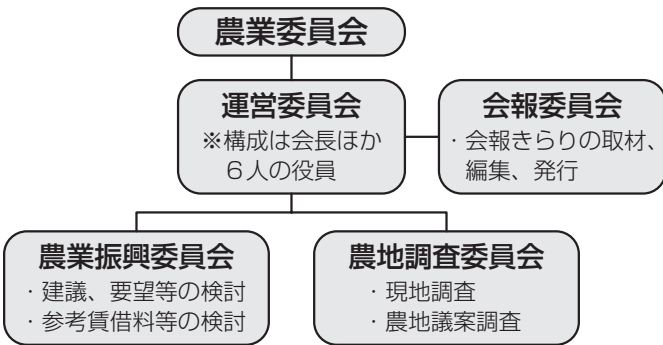
担い手への農用地の利用集積、農用地の無断転用への適正な対応、耕作放棄地の調査、把握等、地域公選の農業委員として基本となる仕事を頑張ります。



阿部 博明
(広岡新田 JANA推薦)

J Aの代表者として農業の発展のため、宝である農地の有効利用(利用集積・遊休農地解消)と担い手(後継者)の育成に努力していきたい。

【農業委員会の組織図】



昨年一月三〇日の任期満了まで二八年間、農業委員を務めた土門修司さんが、農業の発展と農業者の地位向上に尽力された功績が認められ、農林水産大臣表彰を受賞しました。

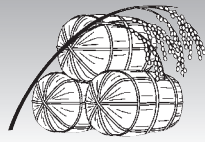
農林水産大臣表彰受賞

= 退任委員の紹介 =

◇ご苦労様でした◇

このたび、ご勇退されました方々のこれまでのご努力に感謝申し上げます。

- 阿部 忠之さん (山元)
 - 小巻 繁さん (大川渡)
 - 小松 賢さん (刈屋)
 - 齋藤 明さん (市条)
 - 齋藤 一さん (板戸)
 - 齋藤 一さん (上黒川)
 - 齋藤 勝さん (砂越)
 - 土坪 豊さん (横代)
 - 富田 聡さん (泉町)
 - 土堀 修司さん (宮内)
 - 堀門 志博さん (藤塚)
 - 土堀 志博さん (石橋)
 - 堀松 国博さん (石橋)
 - 元修 修司さん (亀ヶ崎)
 - 元修 修司さん (十里塚)
- (五十音順)



酒田の米が海を渡りました

～輸出の可能性を求めて 香港視察研修～



最近、米をはじめとする日本の農産物の海外輸出について、新聞等マスコミを賑わすようになりました。

中国等近隣諸外国の経済発展に伴う購買力の向上や、国及び自治体が農産物の輸出拡大を視野においた、攻めの農業へ転換するための環境整備を進めていることもあり、輸出の増加による経済効果に対する期待が高まっています。

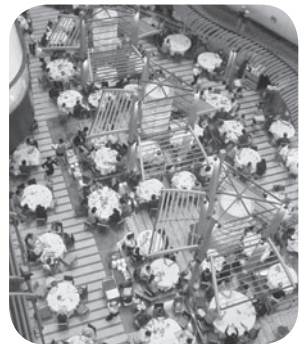
農業を取巻く状況が大きく変動する中で、農業委員会会長他4名が11月中旬に、中国の特別行政区である香港を研修視察しました。

【日本産米の現状と評価】

香港の食生活は、共働きの多いという関係もあり、家庭ではあまり料理を作らず、朝から外食するのが一般的で、レストランは一日中お客さんで混みあっています。香港では、ほとんど農産物を生産しないため、食料は輸入に頼っています。デパート等の食品売り場には、米をはじめとする日本の農産物がたくさんありました。

しかし、東日本大震災による原発の放射能漏れ事故で、これまで培われてきた「日本産の農産物は安全・安心である」というイメージは著しく低下し、日本食レストランの売上げは三割も減少したということです。

現在は、風評被害の影響も徐々に弱まり、事故前の状態に戻ってきていますが、現地での放射能に対するサンプル検査は現在でも義務付けられています。今回、デパートでの試食会及び販売用として持参した酒田産米「はえぬぎ」は一〇〇kgでしたが、香りも良く香港の人たちから、たいへんおいしいとの評価を頂きました。今後販売量を拡



マンションに付帯している食堂での朝食風景

大していく上で、価格が外国産米に比べて二〜四倍と、高いことが大きな問題となっているようでした。また、香港では寿司など日本食がブームとなっていますが、長粒種を使用する炒飯を常食としているため、短粒種の日本産米の消費量はまだまだ少ない状況です。

【輸出拡大に向けて】

今後日本産米の輸出を増やしていくためには、現地の人に合わせた新しい料理を提案するなど、消費拡大に向けて努力する必要があります。合わせて、酒田の農産物は高くても買いたいと思われるよう信頼関係を構築していくことも大事であると感じました。輸食用米は新規需要米として転作にカウントされるため、稲作農家にとっては大きなメリットがあります。

酒田産農産物の輸出を、米か

らスタートして、野菜、果物等に広げて、将来的に輸出先も香港から中国本土へ拡大していくことを目標に、農協等関係団体、生産者と共通認識のもとで協力しながら行動していくことが大切です。輸出するためには利益の出る生産者価格の確保等、越えなければならぬハードルは多いですが、農産物の輸出という新しい形が、酒田市の農業振興に大きく寄与することになると期待しています。



デパートでの酒田産米「はえぬぎ」の試食



位置図

- ・人口700万人
- ・面積は札幌市とほぼ同じ

農業青年の“出会い”をプロデュース

チームえだまめ



サツマイモ収穫の共同作業

季節の農業体験を通して、出会い・交流活動を行っているチームえだまめのイベント「さつま芋 de 出会いの秋に」が、一〇月三〇日に開催されました。今回は宮野浦地区の畑で、農業委員が耕作放棄地解消を目的に栽培したサツマイモ収穫体験が行われ、「こんな大きいサツマイモは見たことがない」と驚く女性を男性が力強くサポート。その後、収穫したサツマイモを使ったスイーツ作りを行い、参加者の個性が活かされたオリジナルスイーツが完成しました。今回は一組のカップルが誕生し、参加者からは祝福の拍手が送られました。

農家のおせっかいおばさん

酒田市・三川町・遊佐町の女性農業委員六名が「明るく元気な農業青年は忙しくて出会いがない」との思いから、農家のおせっかいおばさんの会を結成しました。

初めての農業青年の出会い・交流イベントとして、十一月九日に「November Love」11月のときめき」が開催され、三六名の男女の参加がありました。

一対一トークなどで参加者は交流を深めました。初対面で緊張している男女には、おせっかいおばさんが優しくフォロー。何と四組のカップルが誕生しました。



おせっかいおばさんの皆さん

かせい

～若手農業者リレーエッセー～



私事ですが、二〇一一年一二月一〇日、三年の独身生活に終止符を打ちました。

我が家では代々酪農を営んでいます。朝夕の搾乳、草地の刈取り、その合間を縫って地区行事等々、農業一筋で生活していくのは大変なんだと傍らで思いつつ、ただ日々の仕事をこなしていました。

そんな時ふと出会ったのが、農業委員会主催の婚活事業「チームえだまめ」です。様々な農業体験を通じて、パートナーとの出会いを見つけるこの事業。

私も実行委員兼参加者としてお世話になりました。

その体験の一つとして行った、

『チームえだまめに感謝!!』

平田地区・山元 長堀 仁実

牛舎での酪農体験。参加者みんなで給餌体験や哺乳体験をしている片隅で、牛にほとんど近づけなかった女性がいきました。話してみると、牛が大きすぎて怖いとの事。牛舎で牛の話をし、懇親会でアドレス交換。その後、縁があつて交際することになり、さらに縁あつて結婚するに至りました。素敵な出会いを与えてくれた「チームえだまめ」に心より感謝します。

農業は、自然と向かい合い食物を生産する素晴らしい職業ですが、出会いの機会が少ないのもまた事実です。「チームえだまめ」は、農業に興味のある方と出会い、且つ得意なフィールド（農業）上で自分をアピールできる絶好の事業だと思います。

ほんの少しでも興味のある方は、面倒くさがらず、恥ずかしがらず、一歩踏み出して、ぜひ

ひ参加してみたいかがでしょうか。



～売れています!!
酒田の農産物～

麦わら通信

東京 武蔵野市



「希望あふれる
一年にー」

新年明けましておめでとうございませう。

昨年は、東日本大震災や福島原発事故など未曾有の災害に見舞われ、心の痛む忘れることのできない一年でした。

あの大震災で、私たちは多くの犠牲を出し、今もなお苦しみが続いています。福島は、放射能汚染により大きく損なわれ、一九八六年に起きたチェルノブイリ原発事故の前例からみて、被害はこれから表出することが予測されます。

早急な国の対応が望まれる一方で、山形は東北の真ん中を走る奥羽山脈の影響により、放射能汚染を免れた貴重な土地になりました。これからは、福島の人々の避難場所としても、農作物を供給する生産地としても、重要な意味を持つ場所になってくると思います。

大震災が起きた時に、青森から茨城までの五つの原発が危機的状况にあって、いつ福島原発のような状態になってもおかしい

くなかったということが、後に明らかになりました。もし一度事故が起こってしまったら、もう人間の手ではコントロール不能になってしまふことの恐怖を感じるのと共に、想定し得る被害を最小限に食い止めるための、迅速な対応の必要性を感じます。三年間ありがとうございました。昨年が悲しみの多い一年だった分、今年は明るく希望が持てる一年になるように強く望みます。今後とも「麦わら帽子」をよろしく願います。

(佐藤博幸・酒田市出身)



東京にお越しの際は、ぜひお店にお立ち寄りください

毎月第4金・土曜日は……
酒田フェアを実施中!!

短 信

平成二四年度酒田市

農業基準賃金について

平成二四年度酒田市農作業基準賃金は、一月開催の総会で決定予定です。基準賃金の表は、決定後に酒田市のホームページに掲載します。また、五月に「き

らり」春季号といっしょに配布します。

農業者年金受給者

説明会について

農業者年金受給者説明会を二月上旬に開催します。日程は、決まりましたら対象者にお知らせします。

ドリームコラボっと! in SAKATA

～『つなげよう広めよう』農水産商工女性の力で～

土里夢の会では、11月27日に農業・商工業・漁業等の様々な業種に携わる女性たちによる初めての異業種交流会を開催しました。

東北公益文科大学の渡辺暁雄准教授をコーディネーターに迎え、地域づくりにおける活動等について情報交換を行い、交流しました。また、各団体の活動をPRするために用意した、米粉ピザや鮭のハンバーグ、傘福キットなどの試食品やお土産品は、参加者の皆さんに大変好評で話はずみ、和やかな雰囲気の中、交流することができました。今後の農水産商工女性の連携につながるものと期待します。



試食品、お土産品を囲みながらの歓談



パネルディスカッションによる情報交換

酒田の キラリな女性たち

「えぶろんまま」



「えぶろんまま」の皆さん



地元食材を使ったおかずがたくさん

平成8年に広野地区の農家のお母さん7名が出資金と農村婦人活動費で立ち上げました。新鮮な野菜、米を使った弁当、折詰など注文を受けてから作り届けるシステムと当番制は、私たちに向いているのか17年目を迎えることができました。

毎月いくらかでも給与を頂き、積立金でハワイや北海道など旅行に行ったり、テレビに出演する機会に恵まれたりなどグループ活動の良さを感じています。これまでの多くの方々のご理解とご支援に深く感謝いたします。

22年の春、「えぶろんまま」に視察に来られた岩手県一関市千厩町の方が、22年12月に市内の空き店舗を利用して「まんまや」を作り、8名で昼はもちろん夜の弁当も配達し、平均150食を作っている活動内容に感心させられました。東日本大震災では、おにぎりをろうそくの明かりで作って届け、喜ばれたことで一層会員の絆が強まったそうです。

酒田にも第2・第3の「えぶろんまま」ができるといいですね。

代表 熊谷 花井 / 会員数7名



盛り付けもチームワーク抜群!!



おいしそうな弁当の完成です

春になれば土を耕し種を播く、夏の間は水管理と雑草との戦い、秋には収穫で一喜一憂する。何十年と繰り返されてきた農作業、この農作業を継続できることが如何に幸せか、今強く気づかされています。

農地がそこにあっても耕作できない農業者が数多くいる現実を考えた時、深く胸が痛みます。被災された農業者のためにも、安全・安心でおいしい作物を作り続けることが私たちの責務であり、一番大事な仕事と受け止めています。被災地の農業者が一日も早く、農作業に従事できる日が来るよう願うばかりです。

農業だけでなく、国内産業全体が大変な今だからこそ、真剣に農業・農政と向き合いながらも、淡々と田畑を耕作し、次代に繋ぐことが我々農業者のなすべきことと考えます。

(ム)

新会報委員

会報委員長 佐藤 六雄
副委員長 横山 主税

五十嵐 亨 伊藤 正明
佐藤 喜紀 村上 淳子

遠田 君雄

